

〔類聚名義抄水〕湖音胡 水ウミ

〔枕草子〕海は 水うみ

〔八雲御抄三上〕湖地儀 ころゑま俊抄 ころひな にはてる ゑなてる みづうみ ゑほならぬ

うみ 近江には、八十の泊有、

〔拾遺和歌集三秋〕ちくぶしまにまうで侍ける時、もみぢのかげの水にうつりて侍ければ、

法橋觀教

水。うみに秋の山邊をうつしてははたばりひろき錦とぞ見る

〔和漢三才圖會五十七〕湖音 和名美豆宇三

湖、大陂也。○中略

按、湖似海而其水淡故名水海、江州湖形似琵琶故名琵琶湖、其長可二十四里、遠州之江湖亞之、故得

近江遠江之名、信州諏訪湖、其湖中有温湯亦一異也、佐渡布勢湖、其外奥州、賀州、因州亦有湖、

〔東雅二地輿〕湖ミヅウミ 水海也、古時湖水をばアフミノミと云ひけり、萬葉集抄に、アハウミとは、

シホウミにあらざる水海なるをいふなり、と見えしこれなり、海と云ひしは、其水大きにして海

の如くなるが故なり、近江國をチカツアフミといひ、遠江國をトオツアフミと云ひしが如きこ

れなり、其近遠をわかちいひしは、京畿を相去るの近遠をいふ也。○註略 又古には、湖の字讀てミナ

トともいふ、阿波國風土記の中湖讀て中の水門といふ此なり、

〔倭訓栞前編三十〕みづうみ 倭名抄に、湖をよめり、水海の義也、古へ淡海といへり、近江の湖を琵琶

湖といふは、其形の似たる也、海東諸國記に、崇神天皇元年、開近江州大湖といふは、我邦此説あ

る事久し、もとより妄也、讀書管見に、南方止水深濶通謂之湖、北方止水深濶謂之海子と見えたり、

西湖の如きは、船の往來する河也といへり、石花の海は、萬葉集長歌に見ゆ、駿河國富士山の戌亥